

「スジチャダイゴケ (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

大根収穫の大切な作業の一つに「マルチはがし」がある。「マルチ」というのは、畑の畝を覆う、黒や透明のシートのことだ。雑草予防・地温保持・肥料流出防止などの効果がある。正確には「マルチング・シート」であり、「マルチ」はその略称である。ワラや落葉、木材チップなども使われるが、郊外園のものは、扱いがしやすいポリエチレン製である。



ダイコンの収穫が終わり、5年生を中心にマルチの除去作業をしていると、「田中せんせえーい！」と叫び声がした。こういう場合、大抵は、クモか、カナヘビか、何かの幼虫の発見である。しかし今回はちがった。「先生、マルチの下に、何か変な虫の巣っぽいのがたくさんある！」という。ややや、これは！



虫の巣などではない。これは「スジチャダイゴケ」である。スジチャダイゴケは「コケ」という名称だが、蘚苔類ではなく、キノコ(菌類)の一種である。



よく観察すると、周囲の土が、白いクモの巣のような菌糸で覆われていることがわかる。その一部にキノコ(子実体)が成長したわけだ。恐らく、マルチの下は高温多湿で、菌類の生育に適していたのだろう。



「スジチャダイゴケ」 *Cyathus striatus*

土には、このキノコの菌糸がまん延している。幼菌も見える。こういう場合、土ごと切り取って持ち帰れば、教室で成長を観察できる可能性がある。(つづく)